令和5年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

—教育目標—

心豊かでたくましく郷土を愛し

その発展に尽くす市民を育む教育を進める

令和6年8月

鹿角市教育委員会

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

目 次

I 学校教育の重点目標と事務・事業 《担当課 総務学事課》

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

①	児童生徒学力向上対策事業	P 1
②	課題研究活性化事業	P 1
③	読書活動の推進	P 1
④	ふるさと・キャリア教育推進事業	P 2
⑤	特色ある学校づくり推進事業	P 2
⑥	ふるさとかづの絆プラン事業	P 2
⑦	夢の教室開催事業	P 2
⑧	鹿角音楽祭開催事業	P 2
⑨	I C T活用教育事業	P 3
⑩	外国語活動充実事業	P 3

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

①	hyper-QU検査	P 4
②	給食による食育の推進	P 4
③	中学校部活動の地域移行の推進	P 4
④	5歳児すくすく健康相談	P 4
⑤	特別支援教育支援員配置事業	P 5
⑥	かづのこもれび教室運営事業	P 5
⑦	かづのこもれび相談事業	P 5
⑧	奨学資金貸付事業	P 5

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

①	通学対策事業	P 6
②	獣害・感染症対策	P 6
③	鹿角市学校多忙化防止計画の推進	P 6
④	鹿角市初任者研修の充実	P 7
⑤	コミュニティ・スクールの推進	P 7
⑥	特色ある学校づくり推進事業【再掲】	P 7
⑦	ふるさとかづの絆プラン事業【再掲】	P 7

II 生涯学習推進の重点目標と事務・事業 《担当課 生涯学習課》

(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成

①-1 地域学校協働活動推進事業	P 8
①-2 成年教育講座	P 8
①-3 花いっぱい運動への参加	P 8
①-4 鹿角の未来創造わけもの塾	P 8
①-5 二十歳のつどい	P 8
①-6 文化財保存活用地域計画策定事業	P 8
②-1 SNSアカウント 4サイト	P 9
②-2 オンライン研修会等	P 9
③ 施設間連携事業	P 9
④-1 読書活動の推進	P 9
④-2 十和田図書館整備事業	P 9

(2) 地域を担う人材の育成

①-1 「どごさデモ」出前講座の開催	P10
①-2 かづの人財発掘事業	P10
②-1 花いっぱい運動【再掲】	P10
②-2 高校生ボランティアの活動支援	P10
②-3 地域学校協働活動におけるボランティア参加	P10

(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援

① 地域学校協働活動推進事業【再掲】	P11
② 家庭教育推進事業	P11
③ 青少年健全育成事業	P11

(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援

①-1 二十歳のつどい開催【再掲】	P12
①-2 市民センターにおける同世代・青少年教育関連事業	P12
①-3 高齢者の活動支援	P12
②-1 生涯学習奨励員活動	P12
②-2 花輪図書館歴史講座	P12
②-3 歴史民俗資料館主催講座	P12
②-4 先人顕彰館主催講座	P12
②-5 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】	P12
②-6 地域学校協働活動推進事業【再掲】	P12
③ 鹿角の未来創造わけもの塾の開催【再掲】	P13

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

① 「比内支援学校かづの校」の学習活動支援	P14
②-1 パラリンピック種目体験	P14
②-2 社会教育施設での啓発活動	P14
③ 日本語講座開設事業	P14

Ⅲ スポーツ推進の重点目標 《担当課 スポーツ振興課》

(1) 生涯スポーツの普及推進

- ① チャレンジデーの開催 P15
- ② タートルマラソンの開催 P15
- ③ 総合型地域スポーツクラブの育成 P15

(2) スポーツによるまちづくりの推進

- ① スポーツ拠点づくり推進事業 P16
- ② 「スキーのまち」の推進 P16
- ③ 「駅伝のまち」の推進 P16
- ④ はばたけアスリート鹿角コーチング事業 P16
- ⑤ スキー駅伝選手育成強化対策事業 P16

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

- ① 市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 P17
- ② 指導者の育成と活用 P17

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

- ① スポーツ施設の利用促進 P18
- ② スポーツ施設の整備・充実 P18

IV 文化芸術振興の重点目標 《担当課 生涯学習課》

(1) 文化芸術活動の振興

- ① 文化の杜交流館事業 P19
- ②-1 文化芸術振興事業 P19
- ②-2 市民センター「文化祭」 P19

(2) 文化財の保存と活用

- ①-1 文化財保存事業 P20
- ①-2 無形民俗文化財担い手育成事業 P20
- ①-3 声良鶏保存奨励事業 P20
- ①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業 P20
- ①-5 文化財保存活用地域計画策定事業【再掲】 P20
- ②-1 歴史民俗資料館の運営 P21
- ②-2 先人顕彰館の運営 P21
- ②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催 P21

(3) 世界遺産の活用推進

- ① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 P22
- ② 大湯環状列石環境整備事業 P22
- ③-1 普及啓発・情報発信 P22
- ③-2 学習機会の提供 P22
- ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 P22

教育委員会事務事業点検評価 <概要> P23～28

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規程により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

I 学校教育の基本方針と重点目標

1 基本方針	社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ、志の高い子どもを育み、一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる学校教育の充実を図る。
2 重点目標	(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実 ①自己実現のために必要な確かな学力の定着 ②ふるさとを支える気概を持った人材の育成 ③情報活用能力とコミュニケーション能力の育成
3 成果指標	標準学力調査における全国平均正答率との比較 (小学4～6年生) (前年) 103% (実績) 99% (R7目標) 103% 標準学力調査における全国平均正答率との比較 (中学1～2年生) (前年) 103% (実績) 102% (R7目標) 103%
事務・事業の内容	成果・課題等
<p>①児童生徒学力向上対策事業</p> <p>標準学力調査 小学校4～6年生 576人 中学校1～2年生 425人</p> <p>hyper-QU検査 (年2回) 小学校4～6年生 延べ1,176人 中学校1～2年生 延べ864人</p>	<p>標準学力調査では、各校で結果の分析や活用が行われており、全国平均正答率との比較では、ほとんどの学年で本市の平均が全国平均を上回った。また、hyper-QU検査の結果を活用し、児童・生徒の学力と学級の状態を関連させた分析を行い、学級集団の状態を把握して学級経営や授業の展開に生かすことができた。</p>
<p>②課題研究活性化事業</p> <p>研修会開催2校1団体71人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花輪中：「キャリア教育の実践～総合的な学習の時間との結びつきと花輪中学校への提言～」 筑波大学教授 藤田 晃之 氏 ・八幡平中：「より良いコミュニケーションの能力を身に着けるために押さえておきたい基本のマナー」 第一印象研究所 松浦 永子 氏 ・鹿角校長会：「若手教員とともに育つ学校経営のために」 秋田大学教授 鎌田 信 氏 	<p>小中学校の教職員を対象として、キャリア教育、コミュニケーション、学校経営について、2校1団体で講師を招へいた研修会を実施した。それぞれ第一線で活躍されている講師による貴重な講演であり、参加者は理解を深めることができた。</p> <p>花輪中では、講師に実際の授業も見ていただき、指導助言を受けることができた。また、八幡平中では参加者に考えさせる形式の研修で、学校外の生活でも役立つマナーや声掛けの方法を学ぶことができた。</p>
<p>③読書活動の推進</p> <p>図書館との連携事業 (図書館見学・職場体験の受入れ、夏休み読書セット貸出や移動図書館の学校訪問、ブックリストの配布と本紹介 等)</p>	<p>朝読書やビブリオバトルなどの学校ごとの取り組みや、図書館との連携等により、読解力や想像力、思考力、表現力を育む読書活動の推進を図ることができた。</p>

<p>④ふるさと・キャリア教育推進事業 ふるさと・キャリア教育コーディネーター配置 1人 夢探究プロジェクト（夢たん）の受入登録事業所数 183社 職場見学 参加児童数 985人、利用事業所 54社 職場体験 参加生徒数 285人、利用事業所 132社 個人職場体験 参加児童生徒 20人、事業数 2回 「夢たん」通信 年 17号発行</p>	<p>ふるさと・キャリア教育コーディネーターが学校と事業所をつなぎ、市内の全小中学校において職場見学や職場体験を実施することができた。児童生徒に市内の様々な仕事を知ってもらうほか、企業や地域で働く方との関わりを通して望ましい勤労観や職業観を育むことにつながっている。 また、「夢たん」通信を発行し、各校のキャリア教育の取組みを紹介することができた。</p>
<p>⑤特色ある学校づくり推進事業 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校 6校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校 4校すべてで実施</p>	<p>すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々を外部講師として招へいし、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなどに取り組むことができた。当日の体験学習のほか、事後の学習として、学んだことをまとめて地域等で発表することで、表現力の向上につながることができた。</p>
<p>⑥ふるさとかづの絆プラン事業 小学校 6校すべて実施 開催総数 8回 中学校 4校すべて実施 開催総数 4回</p>	<p>各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒がそれぞれの地域にある農作物の収穫や伝統芸能などを体験したり、観光ガイド等で交流したり、他校の活動と一緒に参加することで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。</p>
<p>⑦夢の教室開催事業 小学校 6校 8学級（5年生）</p>	<p>JFAこころのプロジェクト「夢の教室」の開催により、協力して課題を解決することや相手を思いやる気持ち、夢や目標に向かって努力することの大切さなどを児童に伝えることができた。</p>
<p>⑧鹿角音楽祭開催事業 11月3日（金）開催 会 場：文化の杜交流館コモッセ 出演者：小学校スクールバンド部等 163人 来場者：570人</p>	<p>小学校のスクールバンド部とミュージックパフォーマンス部が出場し、子どもたちによる息のあった素晴らしい演奏が披露され、盛会裏に終了した。来場者の入場制限のない形で、チケットの一般販売を行い、多くの方から観覧いただくことができた。なお、吹奏楽部員の減少や開催日が近接することになったアンサンブルコンテストに出場するための練習時間の確保などの課題を踏まえ、実行委員会において、今回を持って事業を終了することとした。</p>

<p>⑨ ICT活用教育事業</p> <p>校内通信ネットワークの活用 (小学校6校、中学校4校)</p> <p>児童生徒1人1台端末の活用 計2,060台 小学校 児童1,097台 指導者188台 中学校 生徒 658台 指導者117台</p> <p>電子黒板配置 80台 小学校6校 47台 中学校4校 33台</p> <p>ICT支援員の配置 3人</p>	<p>小中学校の授業等において学習用端末や電子黒板などのICT機器を積極的に活用することで、必要な情報が収集でき、画像・動画等による多角的な視点から得られる情報を駆使して学ぶことにより、児童生徒の学習意欲を高めたり理解力の向上が図られたりしている。</p> <p>また、ICT支援員の配置により、ICT機器を活用する授業や校務に対するサポートが充実したほか、研修を実施したことで教員のICTスキルの向上を図ることができた。</p> <p>学習用端末の家庭への持ち帰りについては、家庭における学習用端末の使用に関する注意事項や活用ルール、インターネットへの接続方法等を記載したマニュアル等を作成し、保護者及び各学校に配布した。8小中学校で学習用端末の持ち帰りが実施され、家庭学習等で活用が図られた。</p>
<p>⑩外国語活動充実事業</p> <p>ALT(外国語指導助手)の配置 3人 学校訪問</p> <p>小学校 授業時数1,680時間 配置時数1,355時間(配置割合81%)</p> <p>中学校 授業時数3,360時間 配置時数782時間(配置割合23%) (週4時間のうち1時間)</p>	<p>小学校では、ALTが実際に児童とやりとりをする機会を多く設けることで、児童が英語を学ぶ楽しさを覚え、話す力と聞く力が少しずつ付いてきている。</p> <p>中学校では、ALTが授業で使うカードやスライドなどの教材をALTが作成し、生徒が意欲的に取り組めるよう工夫している。また、インタビュー活動の相手を積極的にALTが行い、英語のコミュニケーション能力の育成と、生徒の話す力、聞く力の向上につながっている。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p>☐目標を上回る ☒ほぼ目標どおり ☐目標をやや下回る ☐目標を大幅に下回る</p>	

2 重点目標	<p>(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実</p> <p>①豊かな心の育成</p> <p>②健やかな体の育成</p> <p>③一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進</p>
3 成果指標	<p>市内教職員の研修会等参加率</p> <p>(前年) 54% (2校1団体3回開催) (実績) 41% (2校1団体3回開催)</p> <p>(R7目標) 25%</p>
事務・事業の内容	成果・課題等
<p>①hyper-QU 検査</p> <p>年2回実施</p> <p>小学校 4～6年生 延べ1,176人</p> <p>中学校 1～2年生 延べ 864人</p>	<p>hyper-QU を活用した研修会を各校で行い、生徒指導の実践や研修の充実が図られた。児童生徒の学力向上につなげるため、1学期と2学期で2回調査した結果、学級集団の状態や変化を把握し、学級経営や授業の展開に生かすことができた。</p>
<p>②給食による食育の推進</p> <p>たらふくかつのの日 年5回実施</p> <p>学校給食センター運営委員会の開催</p> <p>給食だより 年12回発行</p>	<p>安全安心に配慮した給食の提供に努めたほか、地場産物を多く取り入れたメニューや郷土料理の提供、給食に関する情報を掲載した給食だよりの発行等により、地域の自然や文化などへの理解と郷土愛を深めることができた。</p> <p>また、物価高騰の影響による給食賄材料費の増額分を市が負担したことで、給食の質の確保のほか、保護者の負担軽減が図られた。</p>
<p>③中学校部活動の地域移行の推進</p> <p>鹿角市部活動地域移行検討委員会 4回開催</p> <p>部活動指導員の配置</p> <p>花輪中学校陸上競技部 1人</p> <p>十和田中学校バスケットボール部 1人</p> <p>八幡平中学校バレーボール部 1人</p> <p>花輪中学校吹奏楽部 1人</p>	<p>鹿角市部活動地域移行検討委員会を開催し、委員からは運営主体や指導者、練習場所や危機管理と責任の所在、学校との連携等について、多くの意見が出された。地域移行を進めるうえで検討すべき課題について整理しながら、まずは休日等の部活動について、準備の整った部活動から段階的に移行していく方針とした。</p> <p>また、中学校部活動指導員を2校に継続配置したほか、新たに1校に配置したことにより、個々の生徒の技術に対応した指導を行うことができた。また、専門的な指導を継続して受けることで、多くの生徒の技能や意欲の向上につながった。</p>
<p>④5歳児すくすく健康相談</p> <p>受診者 148人</p>	<p>すこやか子育て課と連携して、5歳児及びその保護者を対象に、発達の確認や子育ての相談支援事業を実施することで、発達障がい等の早期発見や支援につなげることができた。また、就学に向けての不安や悩みに対する心のケアが図られた。</p>

<p>⑤特別支援教育支援員配置事業 小学校 6 校 14 人 中学校 4 校 3 人</p>	<p>通常学級に在籍している発達障害傾向等の課題を抱えている児童生徒に対して、小学校では主に生活面、中学校では主に学習面の支援を行った。各校では支援員の配置計画を作成し、授業に集中したり、学習内容を理解したりすることができるように、個に応じたきめ細かな支援を実施した。</p>
<p>⑥かづのこもれび教室運営事業 入級申請 小学生 7 人、中学生 13 人、計 20 人</p>	<p>自閉症傾向や対人不安などの要因を背景とした長期欠席及び不登校傾向の児童生徒にとって、こもれび教室は安心できる居場所になっており、学校復帰につながるように指導員が個別の学習指導や体験活動を行っている。また、相談員が児童生徒とその保護者の相談にのり、心理的な支援を行っている。</p>
<p>⑦かづのこもれび相談事業 専門員による相談件数：カウンセリング 34 件 心理判定・報告 42 件</p>	<p>不登校傾向の児童生徒の状況を学校や保護者から継続的に聞き取り、必要に応じて臨床心理士による心理検査や関係機関との連携につなげている。学校だけでは解決できない複雑な要因が多く、今後も事情を抱えている児童生徒の心に寄り添いながら支援を続ける必要がある。</p>
<p>⑧奨学資金貸付事業 実績：令和 5 年度貸付額 13,680,000 円 高専後期 2 年～大学（月額 30,000 円） 38 人</p>	<p>高等教育機関等に進学希望で経済的支援を必要としている生徒や学生に奨学資金を貸し付けすることにより、在学中の経済的負担の軽減を図るとともに、学ぶ意欲のある生徒の進学や技能習得等に寄与することができた。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p>☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る</p>	

2 重点目標	(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現 ①安全・安心・良質な学びの場づくりの推進 ②教職員のモチベーションと資質の向上 ③地域とともに推進する特色ある学校づくりの推進
3 成果指標	全国学力学習状況調査児童生徒質問紙 ・今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合 (小学6年生) (前年) 67.8% (実績) 75.7% (R7目標) 85.0% ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合 (中学3年生) (前年) 61.3% (実績) 37.5% (R7目標) 85.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合 (小学6年生) (前年) 60.5% (実績) 91.4% (R7目標) 66.0% ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合 (中学3年生) (前年) 48.4% (実績) 70.5% (R7目標) 66.0%
事務・事業の内容	
①通学対策事業 通学路合同点検の実施 8月3日 小中学校通学路 (改善・要望箇所) 18か所 R6年2月28日 通学路安全推進会議開催 スクールバス・タクシー利用 小学校 遠距離 6校 94人 準遠距離 2校 27人 中学校 遠距離 2校 69人 準遠距離 3校 64人 通学対策費補助金 (路線バス定期券購入費補助) 小学校 遠距離 3校 39人 準遠距離 4校 41人 中学校 遠距離 3校 16人 準遠距離 3校 24人	成果・課題等 通学路合同点検については、各学校から要望があった通学路の現地確認を実施した。各関係機関とともに改善が必要な箇所を把握するとともに、安全推進会議を開催し、通学時に支障となっている箇所の対応状況等について情報共有を図るなど、通学路の安全性の向上につなげることができた。 スクールバス・スクールタクシーの運行により、路線バスが運行していない地域の児童生徒の通学手段を確保するとともに、路線バス定期券の購入補助により、通学に係る費用の負担軽減が図られた。
②獣害・感染症対策 熊よけ鈴…新入学児童へ配付 熊忌避剤…全小中学校へ配付 通学路の巡回、見守り…花小、花中、尾中 緩衝帯整備事業…花小、大小、尾小、花中周辺の雑草等で見通しの悪い場所の下刈りを実施 感染症対策用消耗品等…消毒液、マスク、非接触温度計等	登下校時通学路において、熊の出没に伴う安全対策として新入学児童へ熊よけ鈴を配付するとともに、学校周辺に熊を近づけないように忌避剤の設置や雑草等の下刈りを行った。目撃情報があった時は、通学路の巡回や見守り活動を行い、児童生徒の安全確保が図られた。 また、文部科学省の衛生管理マニュアルに基づき、学校における感染症対策の徹底を図った。
③鹿角市学校多忙化防止計画の推進 「第2次鹿角市立小・中学校多忙化防止計画」に基づき、学校の業務改善を図り、児童・生徒と向き合う時間の確保や教育の質的向上を図っている。 令和5年度の勤務時間外在校時間の月平均 (目標: 月平均45時間以内) 小学校: 年間平均 33.0時間 (前年度比-1.9時間) 中学校: 年間平均 41.9時間 (前年度比-5.3時間)	多忙化防止計画に基づき、各校で勤務時間の管理、日常事務や各種行事に関して目標を設定した業務改善計画を策定し、それぞれ改善に向けた取組を行った。これまで災害等に備えて確保していた授業時間の余剰時数について削減する学校も出てきており、その影響で勤務時間外在校時間の年間平均は、小・中学校ともに減少しており、改善が図られている。

<p>④鹿角市初任者研修の充実 小学校教諭 5人 中学校教諭 1人 養護教諭 2人 5月31日、8月23日実施 (先人顕彰館、中滝ふるさと学舎、滝めぐり、グループ協議、 教育長講話 等)</p>	<p>新任教員が研修を通じて地域の歴史・文化・自然等に直接触れることにより、地域の実情等について理解を深めるとともに、指導力と使命感を養わせる機会となった。</p>
<p>⑤コミュニティ・スクールの推進 8協議会(尾去沢・八幡平は小中合同) 委員 延べ114人 協議会3回、熟議1回以上開催</p>	<p>コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入して3年目となり、学校運営協議会が適切に運営されることにより、学校と地域住民や保護者等の委員が情報を共有するとともに、学校運営に関する意見を生かし、地域と一体となって運営に取り組むことで子どもたちを育む意識の醸成が図られ、地域とともにある学校づくりの推進につなげることができた。</p>
<p>⑥特色ある学校づくり推進事業【再掲】 地域の特色を生かした体験学習等の実施 小学校6校すべてで実施 キャリアアップ講座等の講演会の実施 中学校4校すべてで実施</p>	<p>すべての小中学校において地域の特色を生かしたカリキュラムをつくり、地域の方々を外部講師として招へいし、伝統文化、芸能、農業、観光ガイドなどに取り組むことができた。当日の体験学習のみならず、事後の学習として、学んだことをまとめて地域等で発表することで、表現力の向上につなげることができた。</p>
<p>⑦ふるさとかつの絆プラン事業【再掲】 小学校6校すべて実施 開催総数8回 中学校4校すべて実施 開催総数4回</p>	<p>各校で行っている特色ある教育活動について、小学校同士や中学校同士が連携して、体験フィールドを市内全域に広げて実施した。児童生徒が交流したり、他校の活動と一緒に参加したりすることで、視野を広げ、ふるさと鹿角の良さを知る機会となっているほか、市内の伝統や文化等を探求することにもつながっている。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p>☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る</p>	

II 生涯学習推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	生涯にわたって、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実し、その成果を生かすことができる、地域社会の実現を目指す。	
2 重点目標	(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成 ①社会教育関係団体、福祉関係団体、自治会等との連携 ②インターネットの活用による情報発信の強化 ③社会教育施設等の連携による生涯学習環境の充実 ④読書を通じた多様な学習活動の推進	
3 成果指標	インターネットを活用した講座の年間開催数 (前年) 3件 (実績) 3件 (R7目標) 5件 社会教育施設年間利用者数 (前年) 236,681人 (実績) 230,922人 (R7目標) 313,300人 図書館(移動図書館車含) (前年) 85,766人 (実績) 90,324人 (R7目標) 130,000人 先人顕彰館 (前年) 1,309人 (実績) 1,356人 (R7目標) 1,600人 歴史民俗資料館 (前年) 2,649人 (実績) 1,495人 (R7目標) 1,700人 大湯ストーンサークル館 (前年) 29,775人 (実績) 29,144人 (R7目標) 30,000人 文化の杜交流館(図書館、未来センター、花輪市民センター除く) (前年) 117,182人 (実績) 108,603人 (R7目標) 150,000人	
事務・事業の内容	成果・課題等	
①-1 地域学校協働活動推進事業 ・あきた未来塾の共催・協賛(児童センターほか) 6団体 開催回数 19回 参加者延べ 325人 ①-2 成年教育講座 ・高等学校との共催による講座の開催 3回 参加者延べ 172人 ①-3 花いっぱい運動への参加 ・自治会、老人クラブ、婦人会、環境保全隊、学校等 参加団体 60 団体 ・先進地視察研修の実施 1回 参加者 12人 ①-4 鹿角の未来創造わげもの塾 ・武蔵野大学・大正大学学生と塾生とのミーティング ①-5 二十歳のつどい ・二十歳のつどい実行委員会との共催 実行委員 12人 ・実行委員会 6回開催 ①-6 文化財保存活用地域計画策定事業 ・小坂町と共同で策定	地域学校協働活動は、認知度も上がり、子どもたちのよりよい学びに協力してくれる市民や団体が増加した。 成年教育講座では、高校生に対し時宜をとらえて消費者としての知識や成年としての権利・責任を学ぶ機会を提供でき、実施した学校からの反応も良好であった。 花いっぱい運動では、申込団体が前年度から2団体増加したほか、県コンクールに申し込んだ9団体のうち7団体が優秀賞以上を受賞した。新たに実施した先進地視察研修も好評で、花づくりから地域づくりへのつながりが期待される。 わげもの塾や二十歳のつどいでは、大学生や二十歳のつどい対象者との議論で出された意見を積極的に取り入れ、事業を立案・実施することができた。	

<p>②-1 SNSアカウント 4サイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube ・Facebook ・X (旧 Twitter) ・Instagram <p>(生涯学習課、コモッセ、大湯ストーンサークル館、先人顕彰館、図書館において、各施設が開設)</p> <p>②-2 オンライン研修会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二十歳のつどい オンライン視聴者 212人 ・地域学校協働活動推進員等合同研修会 オンライン視聴者 19人 ・情報発信講座 オンライン視聴者 1人 	<p>インターネットを活用した情報発信は、コロナ禍における事業の代替手段としてスタートしたが、発信回数を増やし、内容の質が向上した結果、度々報道に取り上げられるようになり、フォロワー数等課題はあるものの、徐々に効果が出ている。</p> <p>オンライン研修会は、ワークショップが難しいなどの課題があるものの、会場に足を運ぶのが難しい場合も参加できるメリットがある。会場参加とオンライン双方のメリットを活かしたハイブリット型の講座の提供で、多くの参加者に学びの機会を提供できた。</p>
<p>③施設間連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の杜交流館連携事業の開催 3回 参加者 延べ 687人 ・地域学校協働本部と花輪図書館、歴史民俗資料館との共催事業(あきた未来塾) 1回 ・十和田市民センター文化祭への先人顕彰館紹介ブースの設置 等 	<p>コモッセでは、「コモデコ」に使う装飾の作成をイベント化するなど、施設間の関わりを広げることができた。</p> <p>施設の相互利用につながるような、共通企画や連携事業を今後も立案していく必要がある。</p>
<p>④-1 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花輪図書館 読書感想画コンクール等 33事業 (十和田図書館との共通事業含む) ・花輪図書館 100周年記念事業 ブックマラソン 完走者 130人 相場詩織講演会 参加者 300人 ビブリオバトル in Akita 北鹿大会 出場者 7人 ・十和田図書館 郷土を語る会、よるとしよ等 38事業 <p>④-2 十和田図書館整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築工事(建築、電気設備、機械設備) 完成: 令和7年2月予定 	<p>花輪図書館 100周年記念事業や、例年以上の自主・共催事業の開催により、図書館利用者数・貸出冊数ともに前年を上回っており、読書に親しむ市民を増やすことができた。</p> <p>十和田図書館整備事業は、6年度末の建物完成に向けた工事が順調に進められており、学ぶ意欲を持つ市民の図書館に対する期待が高まっている。新図書館竣工を契機とした新たな利用者層の掘り起こしのため、多様な取組を実施する必要がある。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p>☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る</p>	

2 重点目標	(2) 地域を担う人材の育成 ①意欲的に学習活動に取り組む人材の育成 ②市民の主体的な地域活動への支援
3 成果指標	どごさデモ出前講座年間利用件数 (前年) 123 件 (実績) 194 件 (R7 目標) 170 件 市民センター新規サークル登録団体延団体数 (5 年累計) (前年) 20 団体 (実績) 30 団体 (R7 目標) 20 団体
事務・事業の内容	成果・課題等
<p>①-1 「どごさデモ」出前講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供講座数 43 メニュー ・全体開催回数 194 回 ・参加者 延べ 4,819 人 <p>①-2 かつの人財発掘事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信講座の開催回数 2 回 参加者 延べ 28 人 	<p>実施件数、申込者数ともに昨年度に比べて大幅に増加した。例年人気の高い高齢者福祉系のメニューに加え、鳥獣被害防止対策や自主防災のメニューの人气が高まっており、市民のニーズに合致した学びの機会を提供できた。</p> <p>地域で活躍する人を講師に迎えたことで、参加者が刺激を受け、学ぶ意欲を喚起することができた。</p>
<p>②-1 花いっぱい運動【再掲】</p> <p>②-2 高校生ボランティアの活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加者数 花輪高校 105 人、 十和田高校 15 人 鳳鳴高校 51 人、 桂桜高校 8 人 国際情報 15 人 <p>②-3 地域学校協働活動におけるボランティア参加</p>	<p>鹿角地域の高校統合を見据え、小坂町・大館市の高校からもボランティアを募集した。例年多くの生徒が参加する除雪ボランティア活動が暖冬の影響で中止になるなど、ボランティア総数は減少したものの、大館市3高校の生徒からの応募が一定数あり、居住地でボランティア活動を行いたい高校生ニーズに適した機会の提供ができた。</p>
点検及び評価	
☒ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援 ①地域学校協働活動の推進 ②家庭教育支援の推進 ③青少年の健全育成を支える市民活動の推進
3 成果指標	地域学校協働活動におけるボランティア延べ人数 (前年) 2,041 人 (実績) 1,897 人 (R7 目標) 1,250 人 青少年育成鹿角市民会議の会員数 (前年) 311 会員 (実績) 318 会員 (R7 目標) 350 会員
事務・事業の内容	
①地域学校協働活動推進事業【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部会議の開催 2回 ・コーディネーターの配置 7人 (統括1人、地域コーディネーター6人) ・学校支援ボランティア 延べ 1,795人 ・あきた未来塾の開催 6教室19回 参加者延べ325人 ボランティア 延べ 85人 ・かづの未来塾の開催 12回、 参加者延べ185人 ボランティア 延べ 17人 ・子ども対象事業年間スケジュール表「ばらえてい いん ふお」の発行 通年版1回、改訂版2回発行 	成果・課題等 <p>学校支援ボランティアは暖冬によるスキー授業の縮小・中止による減があったものの、多くのボランティアの協力が得られた。コーディネーターの呼びかけや活動のPRにより、活動の意義や認知度が上がっているためと考える。</p> <p>あきた未来塾やかづの未来塾は参加児童生徒・保護者ともに好評でリピーターも多い。地域住民が学習支援員として活躍する場にもなっている。より広い層に参加してもらうための工夫が必要である。</p>
②家庭教育推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け家庭教育講座の開催 小学校1回/1校 中学校3回/2校 参加者延べ 207人 ・小学校新入学児童保護者向け子育て講座の開催 小学校6校 参加者延べ 148人 	<p>いずれの講座でも参加者の満足度は高く、学校の希望に合わせた講師選定が功を奏し、学びの効果が高まった。</p> <p>開催希望校が固定化傾向にあり、開催実績のない学校への働きかけが必要である。</p>
③青少年健全育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ運動 年10回(4・9月は一斉キャンペーン) ・高校生ボランティアの活動支援(再掲) ・「青少年を育てる市民のつどい・PTA活動を考える会」の開催 参加者100人 	<p>声かけ運動は、市民が気軽にできる青少年を見守る活動として広く浸透した。りんごレンジャーと合同での一斉キャンペーンも市民・活動団体両者に好意的に受け止められている。</p> <p>市民のつどいでは、地域の人々、PTA関係者がともに考えるべきテーマとして、青少年の自死問題についての講演を開催し好評を得ており、地域でともに子どもを見守り育てる環境の充実に向けた取組みを前進させることができた。</p>
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援 ①同世代交流・世代間交流、人的ネットワークの拡充 ②地域の歴史や伝統、文化、人材を生かした学習活動の推進 ③学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動の支援
3 成果指標	生涯学習・社会教育講座年間参加者数 (前年) 13,285人 (実績) 20,195人 (R7目標) 18,000人 ふるさと・キャリア教育受入新規登録事業所延べ件数(5年累計) (前年) 10件 (実績) 12件 (R7目標) 15件
事務・事業の内容	
①-1 二十歳のつどい開催【再掲】 ・式典、記念事業の開催 1回(1月) 参加者195人 オンライン視聴(再掲) ・新成人による実行委員会の開催(再掲) ①-2 市民センターにおける同世代・青少年教育関連事業 ・花輪市民センター「サタプロ」 2回開催 参加者延べ 22人 「サタちびっ」 2回開催 参加者延べ 36人 ・十和田市民センター「わんぱくスクール」 7回開催 参加者延べ292人 ・尾去沢市民センター「ふれあひかなやまスクール」 7回開催 参加者延べ243人 ・八幡平市民センター「青年レクリエーション事業」 2回開催 参加者延べ 35人 「放課後チャレンジ広場」 3回開催 参加者延べ 99人 ①-3 高齢者の活動支援 ・老壮大学等 参加者延べ2,381人	成果・課題等 二十歳のつどいでは、会場となるコモッセに参加者、保護者、来賓含め数百人が一堂に会し、懐かしい同級生たちとの再会に会場に笑顔が広がり、同世代・世代間交流の場となった。消防団、移住担当など他部局との連携も行い、若者の地元定着やUターン希望者へのPRの場を提供できた。 市民センターにおける青少年関連事業は、十和田市民センターで避難所宿泊を想定した事業を行う等、新たな企画もあった一方で、例年通りの内容に終始したセンターもあったほか、参加者数もばらつきがみられる。身近な社会教育の拠点として、今後はより一層地域や社会の要請に応える事業展開が求められる。 老壮大学等の参加者数は、コロナ5類移行に伴って学ぶ意欲が高まり、前年度より参加者数が約300人増となった。今後も、働く高齢者に対する学びの場や同世代との交流の場を提供し続けていく必要がある。
②-1 生涯学習奨励員活動 ・生涯学習奨励推進協議会の開催 2回 ・北鹿地区生涯学習奨励員連絡協議会事業への参加 ・地区文化祭での奨励員による活動紹介 ②-2 花輪図書館歴史講座 ・「資料からたどる100年前の花輪の歴史」 参加者 40人 ②-3 歴史民俗資料館主催講座 ・民俗学入門ほか 計5回 参加者延べ97人 ②-4 先人顕彰館主催講座 ・内藤湖南を知る会ほか 計31回参加者延べ520人 ②-5 ふるさと・キャリア教育推進事業【再掲】 ②-6 地域学校協働活動推進事業【再掲】	奨励員個々が市民センター等を拠点に、地域の生涯学習のリーダーとして活動している。次年度はより地域へ学びの成果を還元する場を創出していきたい。 歴史民俗資料館では、常設展示のほか温泉や町並みなど、鹿角市の歴史に関係する4つの企画展を開催したほか、民俗学講座や郷土食の体験講座を開催した。先人顕彰館では、今年度新たに館長講座を企画し開催したほか、親子絵画教室や大人の書道教室、人物事典講座を継続して行うことで若年層の来館促進や館の周知を図った。 それぞれの社会教育施設が持つ強みを生かしながら、歴史や伝統、文化を生かした学習機会を提供することができた。

<p>③鹿角の未来創造わけもの塾の開催【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回テーマ「鹿角を若者にとって魅力的なまちにするために自分ができること」 参加者 35人 ・第2回テーマ「青春感って何だろう？」 参加者 16人 ・第3回テーマ「イベント実現のために」 参加者 14人 	<p>若者が自由に意見を言い合える場を設けたことにより、若者同士和気あいあいとした雰囲気の中、「志を同じくする若者が一緒に活動する」機運を高め、次年度の実践支援に結び付けることができた。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p> ☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る </p>	

2 重点目標	(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現 ①障がい者・児童の学習活動の支援 ②共生社会に対する市民の意識向上 ③日本語を母国語としない市民の日本語及び日本文化に対する学びの支援
3 成果指標	障がい者・児童に配慮した生涯学習講座等の延べ提供数 (5年累計) (前年) 12 講座 (実績) 18 講座 (R7 目標) 20 講座 日本語教室延べ参加者数 (前年) 236 人 (実績) 55 人 (R7 目標) 280 人
事務・事業の内容	
①「比内支援学校かづの校」の学習活動支援 ・十和田図書館 TowadaGallery での「比内支援学校かづの校ミュージアム」の開催 見学者 89 人 ・声かけ運動一斉キャンペーンでのリンゴレンジャーの活動支援 レンジャー5 人 ・高等部生徒を対象とした成年教育講座の開催 参加者 19 人	成果・課題等 比内支援学校かづの校の児童生徒の活動支援を展開し、ミュージアムやリンゴレンジャー活動の支援では、障がいのある児童生徒の学習活動の成果を広く市民へ伝える一助となった。 かづの校生徒向けの成年教育講座は、学校からの反応も良好で、消費者としての知識や成年としての権利・責任を学ぶ機会をわかりやすく提供できた。
②-1 パラリンピック種目体験 ・十和田市民センタースポーツ交流会「ボッチャ大会」 参加者 50 人 ・あきた未来塾「チャレンジ THE スポーツ『ボッチャ体験』」 参加者 20 人 ②-2 社会教育施設での啓発活動 ・花輪図書館・十和田図書館での「りんごの棚」コーナー設置 (※バリアフリー図書コーナー) 通年 ・十和田図書館 TowadaGallery での「バリアフリー図書展」 R5. 9. 12～R5. 9. 30 見学者 101 人	パラリンピックスポーツの「“誰でも” 楽しめるスポーツ」としての本質に触れる機会を提供できた。今後は健常者と障がい児・者とのスポーツ交流へと発展させていきたい。 社会教育施設での啓発活動については、図書館においてバリアフリーに関する展示を実施することで、広く市民に対し意識の啓もうが図られた。
③日本語講座開設事業 ・日本語講座の開催 (委託事業) 年 20 回 開催日時：隔週土曜 10：00～12：00 会 場：交流センター、十和田市民センター 参加者 55 人	コロナの5類移行に伴い、令和5年度よりオンラインでの日本語指導から対面型での指導を復活させたが、参加者の多くが技能実習生となり、当初の目的であった、日本語を母国語としない住民の日常生活の困難さを軽減する目的からは離れてきている。参加者数も減少しており、開催場所や時間帯を見直す必要があるほか、将来的には事業の見直しを検討する必要がある。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

Ⅲ スポーツ推進の基本方針と重点目標

1 基本方針	スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を生かして活力に満ちたまちづくりを展開する。
---------------	--

2 重点目標	(1) 生涯スポーツの普及推進 ①生涯スポーツの充実 ②スポーツによる健康づくりの推進 ③スポーツボランティアの普及促進
---------------	---

3 成果指標	週1回以上、運動やスポーツに親しんでいる市民の割合 (前年) 61.5% (実績) 57.0% (R7目標) 65%
---------------	---

事務・事業の内容	成果・課題等
①チャレンジデーの開催 参加率 35.4% 参加者 10,068 人 対戦相手の秋田県北秋田市 (51.6%)	気軽に参加できるスポーツイベントとして定着したチャレンジデーは、前年度に比べ参加率は上がったものの、実施報告の方法を自主報告に委ねた結果、自治会や個人活動で報告していないケースが多数見受けられたことから、今後は報告方法について検討する必要がある。
②タートルマラソンの開催 (5km : 15 人、3km : 51 人、1km : 139 人)	幅広い年代が参加したタートルマラソンは、健康づくりの一翼を担う大会として世代間交流が図られた。
③総合型地域スポーツクラブの育成 市内で3つのクラブが活動しており、地域住民を対象に子どもから高齢者まで、それぞれの志向やレベルに合わせたスポーツ教室などを実施 ・鹿角ウインプル ・十和田スポーツクラブ ・くらすた	総合型地域スポーツクラブの育成では、各クラブの特色を生かした事業展開が行われており、鹿角ウインプルが実施しているウォーキング事業でコロナ禍以前に近い参加者数となっている。今後の新規参加者の獲得に向けた取り組みについては、指導員等が不足していることから体制づくりについて検討する必要がある。

点検及び評価			
☐ 目標を上回る	☐ ほぼ目標どおり	☒ 目標をやや下回る	☐ 目標を大幅に下回る

2 重点目標	(2) スポーツによるまちづくりの推進 ①「スキーのまち」の推進 ②「駅伝のまち」の推進 ③スポーツ拠点づくりの推進 ④子どもたちの夢と希望を育むスポーツ環境の充実
3 成果指標	スポーツ合宿奨励補助金利用人数 (前年) 2,398 人泊 (実績) 2,540 人泊 (R7 目標) 3,600 人泊 共通シーズン券購入補助制度利用人数 (前年) 81 人 (実績) 78 人 (R7 目標) 90 人 浅利純子杯争奪鹿角駅伝、十八駅伝エントリーチーム数 (前年) 95 チーム (実績) 87 チーム (R7 目標) 120 チーム
事務・事業の内容	成果・課題等
①スポーツ拠点づくり推進事業 サマーノルディクスキー大会 参加者数 229 人 スポーツ合宿奨励補助事業 申請団体 47 団体 交付人数 801 人	スポーツ合宿奨励補助事業については、前年度比で増となっている。約 8 割がスキー競技で利用されたほか、陸上競技や卓球、バレーボール競技で利用された。
②「スキーのまち」の推進 全国ローラースキー選手権大会 参加者数 283 人 岩泉杯松橋杯争奪少年ジャンプ大会 参加者数 10 人 ジュニアスキーヤー共通シーズン券発行 発行人数 78 人	ローラースキーについては、国際スキー連盟公認大会として実施しており、海外選手をはじめ国内選手も多く出場した。 共通シーズン券を利用した児童生徒数は、前年度比で横ばいとなっている。
③「駅伝のまち」の推進 十和田八幡平駅伝競走全国大会 エントリーチーム数 16 チーム 参加チーム数 15 チーム 浅利純子杯争奪鹿角駅伝 エントリーチーム数 71 チーム 参加チーム数 59 チーム	十八駅伝の参加チーム数は、新規チームの参加もあったが前年度比で減少している。また、女子チームは 1 団体 2 チームから参加があったが、女子チームからの申し出があり、女子の部の中止を決定した。 浅利純子杯争奪鹿角駅伝については、開催直前で大雨災害により秋田県中学校総体陸上大会と同日になったことで県内チームの参加が減少することとなった。
④はばたけアスリート鹿角コーチング事業 陸上ジュニアクリニック 参加者数 44 人 ローラースキージュニアクリニック 参加者数 20 人 ジュニアスキーヤー(スキー授業)指導者派遣事業 小学校 1 校、中学校 未実施 延べ 3 回 14 人 特別講師派遣事業 比内支援学校、寺子屋	ジュニアクリニックについては、運動会シーズンに合わせた身体づくり、専門分野からの指導と幅広い指導を受けることができた。また、スキー授業については、雪不足の影響により営業できるスキー場が 1 か所となったため 1 校の実施のみとなった。
⑤スキー駅伝選手育成強化対策事業 アルペン 1 事業、クロカン 2 事業、 ジャンプ 4 事業、駅伝 1 事業	通年を通じた合宿等により、選手強化が図られた。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(3) 指導体制の確立と指導者の育成 ①スポーツ団体の組織強化と活動の充実 ②指導者の育成と活用	
3 成果指標	市スポーツ協会の構成員数 (前年) 5,782人 (実績) 5,602人 (R7目標) 5,500人 ジュニアクリニック受講者の大会参加者数 (前年) 29人 (実績) 64人 (R7目標) 1,000人 市スポーツ少年団指導者等登録人数 (前年) 257人 (実績) 202人 (R7目標) 330人	
事務・事業の内容		成果・課題等
①市民スポーツ活動を支える団体との連携拡充 スポーツ協会は、統括組織として市民スポーツの健全な普及・発展を図るとともに市民の健康づくりに寄与している。 また、記念スポーツセンター、城山・毛馬内野球場の指定管理者となっており、効率的で安全な施設の管理を行っている。		市スポーツ協会は、市民のスポーツ活動を支える団体であり、安全かつ快適なスポーツ環境の充実に努めているが、団体の性質上、自主財源の確保が難しいことから、引き続き支援していく必要がある。
②指導者の育成と活用 資格取得のための講習会が開催され、補助制度による負担軽減を図り、指導者を確保する。		スポーツ指導者資格の制度改正に伴い、資格取得者が減少傾向にある。スポーツを支える質の高い指導者を確保していくため、資格取得に係る費用の負担軽減を図る補助制度を継続していく必要がある。
点検及び評価		
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る		

2 重点目標	(4) スポーツ施設の利用促進と整備 ①スポーツ施設の利用促進 ②スポーツ施設の整備・充実
3 成果指標	スポーツ施設の利用者数 (前年) 176,623人 (実績) 173,736人 (R7目標) 260,000人
事務・事業の内容	
①スポーツ施設の利用促進 市営野球場 城山、毛馬内 (4/10～11/10) 利用者数 5,211人 市民プール 鹿角 (旧花輪) 利用者数 10,414人 東山スポーツレクリエーションエリア 利用者数 67,828人 アメニティパーク 利用者数 23,152人 記念スポーツセンター 利用者数 17,465人 水晶山スキー場 利用者数 8,175人 市立ゲートボール場 利用者数 833人 大湯相撲場 利用者数 623人 スポーツ振興課所管以外 利用者数 40,035人	成果・課題等 施設利用について、昨年度との比較では、冬季間に利用されるスキー場の利用者が雪不足の影響により減少している。 また、他の施設においても人口減少から年々利用者が減少している。 今後は、計画的に施設整備 (工事や修繕) 等により改善を図りつつ、施設利用者の利便性向上を図る必要がある。
②スポーツ施設の整備・充実 鹿角トレーニングセンターアルパスサウナ改修工事 鹿角トレーニングセンターアルパス温泉ろ過設備交換修繕 鹿角トレーニングセンターアルパス温泉窓交換修繕 花輪スキー場ため池送水設備更新他工事 花輪スキー場ローラースキーコースウレタン補修工事 花輪スキー場ローラースキーコース災害復旧工事 アルパスレストラン厨房ゆで麺器交換修繕 アルパスレストラン厨房機器 (冷凍庫) 修繕 鹿角市総合運動公園総合競技場改修工事 鹿角市総合運動公園総合競技場施設用備品等購入 市民プール高圧受電設備更新工事 城山野球場防水改修工事 城山野球場打ち込み式外野フェンス等購入 毛馬内球場分電盤設備修繕 アメニティパークアリーナ照明取り換え工事 アメニティパークテニスコート夜間照明更新工事 水晶山スキー場第1ペアリフト通信ケーブル交換修繕	施設整備においては、施設の老朽化に伴い緊急的な修繕等が増加している状況にある。 利用者の利便性に配慮しつつ、安全・安心な施設利用を図るため、鹿角市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に改修・更新等を進める必要がある。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☐ ほぼ目標どおり ☒ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

2 重点目標	(2) 文化財の保存と活用 ①文化財の保存・継承 ②文化財の活用
3 成果指標	無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数 (前年) 1,651 人 (実績) 1,632 人 (R7 目標) 1,740 人
事務・事業の内容	成果・課題等
<p>①-1 文化財保存事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古文書整理 42 回(週 1 回) 解読ボランティア 3 人、入力補助ボランティア 1 人、助言指導 2 人 ・古文書活用委員会の開催 3 回 ・古文書活用講座の開催 1 回、参加者 8 人 <p>①-2 無形民俗文化財担い手育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財担い手育成事業費補助金 3 件 <p>①-3 声良鶏保存奨励事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声良鶏保存奨励金 1 件 <p>①-4 花輪祭の屋台行事保存修理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花輪祭の屋台行事保存修理事業費補助金 1 件 (修理屋台：新田町(2 年目)) <p>①-5 文化財保存活用地域計画策定事業【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査 2 か所 ・地域ワーキング 2 回開催 ・地域計画策定協議会 2 回開催 	<p>古文書整理では、解読ボランティアの協力を得て平成 30 年度より 8 万点余りの資料の目録作成作業を行っており、全体箱数の約 65% の目録を作成することができた。また、古文書などの資料公開に向けたガイドラインの作成を進めているほか、古文書解読などに興味を持つ人材を育成するための講座として「シン・まほろば塾」も開講している。</p> <p>後継者育成を後押しするため、新たに創設した無形民俗文化財担い手育成事業費補助金では、大日堂舞楽、花輪祭の屋台行事、毛馬内の盆踊の 3 つの保存団体に担い手育成や用具の修繕等に係る事業に対し交付したが、無形民俗文化財の保存団体の構成員数は想定を上回るペースで減少しており、それぞれの団体が抱えている課題の解決に向け、支援策を検討する必要がある。</p> <p>市の鳥である声良鶏については、保存会への奨励金等による支援を継続し、育雛管理や春と秋の大会などを通じて PR 活動を展開していただいた。</p> <p>花輪祭の屋台行事保存修理事業では、新田町屋台の修理が完了し、計画的に事業を進めている。(10 町内中 5 町内完了)</p> <p>文化財保存活用地域計画策定事業では、同じ文化圏である小坂町と共同で作業を進め、地域にある文化財の一体的な保存と活用を図るための骨子案を作成した。</p>

<p>②-1 歴史民俗資料館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 1,495 人 (R4 : 2,649 人 前年比 56.4%) ・企画展の開催 5 件、参加者 1,153 人 ・体験学習、講座の開催 5 件、参加者 97 人 <p>②-2 先人顕彰館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数 1,356 人 (R4 : 1,309 人 前年比 103.6%) ・特別展示 「諏訪富多」 ・文化講演会の開催 1 回、参加者 29 人 ・講座、教室、フィールドワーク等の開催 30 回、参加者 491 人 ・「鹿角人物事典 改訂・増補版」の発刊 <p>②-3 鹿角市民俗芸能フェスティバルの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 475 人 ・出演団体 5 団体 <ul style="list-style-type: none"> ・からめ節金山踊り ・花輪祭の屋台行事 ・毛馬内の盆踊 ・兄川先祓い (岩手県八幡平市) ・永井の大念仏剣舞 (岩手県盛岡市) 	<p>歴史民俗資料館は、常設展示のほか毛馬内の町並みなど、市の歴史に関する 5 つの企画展を開催したほか、民俗に関する講座を開催するなど、文化財を活用した生涯学習の推進を図ることができた。一方で、新型コロナウイルス対策として令和 3 年と 4 年に実施した観光スタンプラリーの事業終了に伴い、入館者数はコロナ禍前並みに戻っている。</p> <p>先人顕彰館は、市にゆかりのある偉人に関わる展示や史跡を巡るフィールドワークなどを通じて、先人たちの偉業を学ぶ機会を創出しているほか、新たにスタートした館長講座により内藤湖南を知る機会を増やすなど工夫した取り組みにより、来館促進や館の新たな魅力発信につながった。</p> <p>民俗芸能フェスティバルでは、将来の担い手である子どもたちにスポットを当て、市内外の民俗芸能を披露いただいた。幼児から高校生までの子どもたちの活躍に、アンケートでは概ね高評価であった。</p>
<p>点検及び評価</p>	
<p> ☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る </p>	

2 重点目標	(3) 世界遺産の活用推進 ①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ②史跡環境整備 ③大湯環状列石の活用
3 成果指標	世界遺産の活用推進 (実績) 特別史跡大湯環状列石保存活用計画の策定等 ストーンヘンジ企画展への出土品出展
事務・事業の内容	
事務・事業の内容	成果・課題等
①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携 ・ミニパネル展 大湯ストーンサークル館 野中堂ホール ・ストーンヘンジ企画展への出展 観覧者数 約 43 万人 ・イギリスで行われた国際会議への館職員の派遣と講演 参加者 約 70 人	令和 4 年度より引き続き出土品出展を行っていたイギリスのストーンヘンジ企画展及び館職員の国際会議への参加と講演により、大湯環状列石及び出土品の価値と学術的な魅力を世界中の多くの観覧者へ発信することができた。
②大湯環状列石環境整備事業 特別史跡大湯環状列石保存活用計画の策定及び報告書の刊行	「特別史跡大湯環状列石保存管理計画」の策定から 45 年が経過していることから、本史跡の本質的価値を再確認し、史跡の保存、活用、調査、整備、運営体制の現状と課題を整理し、史跡の保存活用による地域づくりを推進するとともに第二次環境整備事業に向けた基本方針を定めた。
③-1 普及啓発・情報発信 ・入館者数 29,144 人 (R4: 29,775 人 前年比 98%) ・遺跡ガイド ガイド対応延べ人数 2,016 人 (R4: 1,576 人 前年比 128%) 利用人数 9,415 人 (R4: 8,458 人 前年比 111%) ガイド利用率 (利用人数/入館者数) 32% (R4: 28%) ③-2 学習機会の提供 ・縄文鹿魂祭の開催 ・体験学習 (常設) の実施 参加者延べ人 615 人 (R4: 1,054 人 前年比 58%) ・ガイド入門講座の開催 5 回 参加者延べ 7 人 ・ガイドレベルアップ講座の開催 4 回 参加者延べ 37 人 ・ガイドプロフェッショナル講座の開催 1 回 参加者延べ 18 人 ・体験学習 J OMO ラボの開催 8 回 参加者延べ 47 人 ③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用 ・縄文体感事業の実施 縄文食体験の実施、映像コンテンツの導入	大湯ストーンサークル館は、世界文化遺産登録により、ツアー等で訪れる来館者が増えた。入門講座やスキルアップ講座によるガイド育成、定時ガイドツアーの設置などを行い、ガイド利用率や利用者の満足度を高い水準で維持できている。 今後も更なるガイドの育成や、新たな体験学習機会・活用方法の検討、遺跡の学術的価値の向上などを複合的に行っていく必要がある。
点検及び評価	
☐ 目標を上回る ☒ ほぼ目標どおり ☐ 目標をやや下回る ☐ 目標を大幅に下回る	

教育委員会事務事業点検評価 <概要>

(根拠法令)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条

(実施要綱)

鹿角市教育委員会事務事業点検評価実施要綱（平成 26 年 1 月 6 日教育委員会訓令第 1 号）

(点検評価の対象)

令和 5 年度に教育委員会が実施した事務事業

(点検評価の実施日)

令和 6 年 6 月 25 日（火）

(点検評価委員) ※五十音順

安保 範子 委員
石井 勲 委員
岩館 裕章 委員
田口 将 委員

(点検評価の結果)

点検評価委員による評価により、重点目標 15 項目中、13 項目を事務局の評価どおりとする。
また、全委員の意見集約により、以下 2 項目を記載のとおりとする。

- ①Ⅱ 生涯学習推進の重点目標（2）地域を担う人材の育成
事務局の評価「ほぼ目標どおり」を「目標を上回る」とする。
- ②Ⅳ 文化芸術振興の重点目標（2）文化財の保存と活用
事務局の評価「目標をやや下回る」を「ほぼ目標どおり」とする。

項 目	目標を上回る	ほぼ目標どおり	目標をやや下回る	目標を大幅に下回る	計	
I 学校教育の重点目標						
(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実	☐	☒	☐	☐		
(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実	☐	☒	☐	☐		
(3) 学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現	☐	☒	☐	☐		
II 生涯学習推進の重点目標						
(1) 生涯学習推進体制の充実と人材育成	☐	☒	☐	☐		
(2) 地域を担う人材の育成	☒	☐	☐	☐		
(3) 地域・学校・家庭の連携による子どもたちの育ちと学びの支援	☐	☒	☐	☐		
(4) 地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援	☐	☒	☐	☐		
(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現	☐	☐	☒	☐		
III スポーツ推進の重点目標						
(1) 生涯スポーツの普及推進	☐	☐	☒	☐		
(2) スポーツによるまちづくりの推進	☐	☒	☐	☐		
(3) 指導体制の確立と指導者の育成	☐	☐	☒	☐		
(4) スポーツ施設の利用促進と整備	☐	☐	☒	☐		
IV 文化芸術振興の重点目標						
(1) 文化芸術活動の振興	☐	☒	☐	☐		
(2) 文化財の保存と活用	☐	☒	☐	☐		
(3) 世界遺産の活用推進	☐	☒	☐	☐		
合 計	1	10	4	0	15	

点検評価委員よりいただいたご意見は次のとおりです。

点検評価の結果並びに委員の意見等を踏まえ、より一層効果的に成果が得られるよう創意工夫を図りながら事務事業を展開してまいります。

I 学校教育の重点目標

(1) 確かな学力と高い志を育てる教育の充実

⑩ ICT活用教育事業

【委員意見】	・数年前からICT機器が充実してきているので、今後も機器を活用して学力向上につなげていってほしい。
---------------	---

(2) 豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実

⑥ かづのこもれび教室運営事業

⑦ かづのこもれび相談事業

【委員意見】	・かづのこもれび教室への入級申請 20 人とあるが申請していない人もいるのか。 ・不登校傾向の子どもは中学校を卒業すればいなくなるはずなのに、横ばいとか増加傾向で途切れないのはなぜか。発生する前に何か手立てはないものか。
【事務局】	・不登校傾向の全員が申請しているわけではなく、希望する人が申し込んでいる。学校の別室登校を選択する子どもや、自宅にいて先生方とコミュニケーションをとっている子どももいるが、そのうちの 20 人が入級申請しており、毎日来る子どもや不定期で来る子どももいる。 ・小学校から中学校へ上がる段階で自我が芽生えたり、学習についていけなくなったり、他者との関わりで難しさを感じていたりなど要因は様々あると思う。また、低年齢の頃からのネット依存も要因の一つになっていると思われる。家庭のネット環境に対する意識も変わってきているため、親世代の方々と一緒に学習しながら、子どもたちのネット環境をどのようにしていくかを考えていかなければならない。不登校になったとしても、社会とつながっていくことが大事であり、そのための環境の一つとして、こもれび相談やこもれび教室があり、学校も別室登校や個別支援を行っている。

(3) 学校教育環境の充実を図り、地域ともに取り組む、多様で質の高い教育の実現

⑤ コミュニティ・スクールの推進

【委員意見】	・取り組んだ学校は、どのような成果があるか。
【事務局】	・学校評価が大きなウエイトを占めており、各分野の点検項目について、学校のカリキュラム上の課題等に、委員からの意見や話し合いによる外部評価が学校運営に活かされていくことが目的の一つである。地域の方の意見を踏まえて学校運営の在り方を良い方向にもっていくことで、学校の活性化にもつながり、地域との連携のもとに学校運営が適切に行われている。また、熟議の開催により、PTAや子どもたちによる活動が始まっており、地域の活性化にもつながっている。

II 生涯学習推進の重点目標

(2) 地域を担う人材の育成

【委員意見】	・「どごさデモ」出前講座は、職員が仕事の合間に出前講座をしていて大変だと思うが、地域の方は経費をかけずに勉強することができとても良い取組みであり、件数も伸びている。また、成果指標からみると、サークル登録団体数も令和7年度の目標値を超えているので、「目標を上回る」でもよいのではないかと。
【事務局】	・成果指標だけをみるとどちらも目標値を上回っているが、実際のところ解散したサークルもある。また、重点目標の「地域を担う人材の育成」という観点で見たときに、地域を担う人材が揃っている実感があるかというともう少し頑張る余地があると考えている。 ・全委員の意見集約の結果、事務局の評価「ほぼ目標どおり」を「目標を上回る」とすることとなった。

(3) 地域・学校・家庭の連携による子ども達の育ちと学びの支援

②家庭教育推進事業

【委員意見】	・思春期などの子どもの変化に対応できるようにするため、保護者に対する家庭教育講座を開催しているものと思うが、開催を希望しない学校もあるので、関係者が総力を上げて事業を展開してほしい。
【事務局】	・年度初めに講座の開催希望校を募集しているが、時間を設けて新たな事業を実施するという負担感があるものと考えられる。実施後のアンケート結果では、保護者の方々の満足度は大変高かったため、校長会等で共有を図り事業実施を働きかけていきたい。

(5) 誰もが共に学びあえる地域社会の実現

【委員意見】	・点検及び評価は「目標をやや下回る」となっているが、再度内容を確認したい。
【事務局】	・日本語講座開設事業は、令和5年度から対面型を復活させたが、国際交流協会への委託等により講師が変わったことで参加者が減少し、参加しやすいように一部開催場所を変更したが参加者が伸びなかった。今年度は、さらに開催時期や開催時間を見直ししており、参加者が増加している。また、障がい者・児童に配慮した生涯学習講座数については、コンスタントに増えてきているが、前年度から新たな展開はできていないと思う。

Ⅲ スポーツ推進の重点目標

(1) 生涯スポーツの普及推進

【委員意見】	<ul style="list-style-type: none">・成果指標「運動やスポーツに親しんでいる市民の割合」の分母は何か。・例えば、障がいがあって、杖をついて散歩している人はリハビリであるが、運動でもあると思うので、アンケートのとり方を工夫すれば、その人なりの運動と捉えることができ、運動に親しんだ割合も上がっていくと思われる。
【事務局】	<ul style="list-style-type: none">・市民意識調査のアンケートに回答した人数であるため、実際は市民全体ではもっと多い可能性もある。・アンケート調査は、対象となる市民をランダムに抽出しているため、毎年別の人に届く。運動には、家事、家の周りの草取りや家庭菜園、散歩やウォーキングも含んでいる。また、チャレンジデーは15分間の時間設定をしているが、アンケートでは限定していない。

①チャレンジデーの開催

【委員意見】	<ul style="list-style-type: none">・市民みんなで取組み、報告方法についても、組織的に声掛けなどをしながら前向きに取り組まないといけないと思う。・本市は健康とスポーツを標榜しており、健康寿命や食、スポーツ等が大事な分野だと思うので、目標まで届かなくても、熱意や力強い表記などプラス面があれば、頑張りが伝わり、評価も上がるのではないかな。
--------	---

③総合型地域スポーツクラブの育成

【委員意見】	<ul style="list-style-type: none">・受益者負担での運営が大前提であったが、県内でも受益者負担のみで運営できているクラブはほぼ無いという実態であり、大都市と地方で格差も生じている。日本スポーツ協会では、総合型スポーツクラブとスポ少が連携した体制づくりを検討する方向なので、情報を得ながら対応してもらいたい。・市内にある3つのスポーツクラブは、参加者も少しずつ増加し定着してきているが、自立できているとは言えず、現状で新たなメニューを考えることは難しいと思われるため、「クラブの育成」という項目は検討する時期だと考える。
--------	--

(3) 指導体制の確立と指導者の育成

【委員意見】	<ul style="list-style-type: none">・成果指標「ジュニアクリニック受講者の大会参加者数」は令和7年度目標値と実績の数値に乖離があるので、見直した方がよいのではないかな。目標値をすぐに変えられないのであれば、成果・課題欄に下回った理由を追記すればよいと思う。
【事務局】	<ul style="list-style-type: none">・目標を設定した当初は、無料で講師を派遣してもらい野球教室を開催していたが、2年ほど前から有料となったため、現在は事業を実施していない。目標を立てた時点と現状では状況が変わってきている。

②指導者の育成と活用

【委員意見】	・成果指標の「市スポーツ少年団指導者等登録人数」については、令和7年度目標値が330人となっているが、日本スポーツ協会の資格制度が変わり猶予期間もなくなったので、間違いなく今年度の登録者数も激減すると思う。目標値は変えられないのだとすれば、来年度の評価をする時に、減少の要因について、制度改革があったため達成するのが難しい目標値だということを前提に、評価してもよいと思う。
--------	--

(4) スポーツ施設の利用促進と整備

【委員意見】	・成果指標だけをみると、人口減少や少子化によるほか、雪不足や施設整備等の影響により目標値には届いていないが、内容をみると良い面もある。大湯相撲場は、利用者数は約600人と少ないが、前年度と比べると相撲をする子どもたちがかなり増加しており、城山野球場も利用者数は減っているが、県外からの利用は増えている。施設ごとにみると増えている部分もあり、利用している人たちの中身も変わってきているので、数字以外の面でも評価してよいのではないかなと思う。
--------	---

IV 文化芸術振興の重点目標

(2) 文化財の保存と活用

【委員意見】	・歴史民俗資料館の入館者数が少なかったこともあり、成果指標の「無形民俗文化財の保存を担っている団体の構成員数」が目標を達成できなかったとしたものと思われるが、入館者数はコロナ禍前並みに戻っており、目標値に対する実績値も約100人少ないだけなので、全体的にみると評価を上げてよいのではないかな。
【事務局】	・全委員の意見集約の結果、事務局の評価「目標をやや下回る」を「ほぼ目標どおり」とすることとなった。

(3) 世界遺産の活用推進

①「北海道・北東北の縄文遺跡群」の連携

【委員意見】	・イギリスで行われた国際会議へ参加した70人は鹿角市からの参加なのか。報告会を開催し、行った人から話などを聞くことができればよいと思う。
【事務局】	・参加した70人は全てイギリスの地元の方であり、鹿角市からはストーンサークル館の学芸員1名が招待されたことから、派遣した。また、ストーンサークル館では、夏至祭の際に報告会を開催した。

③-3 ユネスコ登録文化遺産の観光活用

【委員意見】	・来館者へスマホを活用した観光案内を行っているが、見ることができない人もいると聞いた。観光客は期待して来ると思うので、すべてに対応できた方がより効果的だと思う。
【事務局】	・スマホアプリを入れて、説明を聞いたり実際の映像を見られるようになっているが、スマホの機種によっては、アプリに対する規制が厳しく対応できない場合もある。そのような場合は、タブレットを準備しており、遺跡ガイドと一緒に見ることができる。

○その他

【委員意見】	・学校に行く機会や子どもと触れ合う機会が少ないので新聞で見ているだけだが、各学校の活動状況が報道・周知され、頑張っている様子がわかって大変うれしく思っている。
--------	---

【委員意見】	・個々の事情をみると改善されている部分もあり、明確な原因による数値の低下については、点検及び評価欄の下に評価した理由を記述してはどうか。 ・令和7年度に、その先5年間の目標を立てるのは非常に難しいことだと思うので、過大な目標とせず鹿角の実情に合った手の届く数値にして評価しないと、いつも下回る状況が続いてしまうと思う。
【事務局】	・評価理由のコメント欄の追加は、令和7年度以降の取組みとして検討したい。 ・昨年度も成果指標のあり方と設定基準についてご意見をいただいていたが、この指標は市の総合計画前期基本計画や実施計画の中で掲げた指標から、該当するものを教育の指標として設定している。指標を今変えることは難しいが、今後、令和8年度からの計画策定段階において、指標の設定の仕方を検討しながらできるだけ現実に即した目標数値を模索していきたい。